

SGH課題研究中間発表会 @ 宇大

11月3日（文化の日）、宇都宮大学の「秋季オープンキャンパス」の日に、「SGH課題研究中間発表会」を実施しました。**宇都宮大学の全面的な協力**のもと、高校1年生全員（32班）がオープンキャンパスに参加した後、課題研究のテーマ別に14の分科会に分かれ、これまで取り組んできたフィールドワークや課題研究の成果を大学教員及び大学生等（裏面参照）の前で発表しました。それぞれの専門分野の研究者から直接ご指導をいただくことで、課題を明確にし、研究の質を高めることを目的とした取組です。

当日の日程

- 11:00 佐野高校集合（→バスで移動）
- 12:10 宇都宮大学着、国際学部の松金先生の挨拶
- 12:50～14:20 オープンキャンパス授業見学①
- 14:30～16:00 オープンキャンパス授業見学②
- 16:10～17:40 **SGH 課題研究中間発表会**
→14分科会でゼミ形式の発表会
- 18:00 宇都宮大学発（→バスで移動）
- 19:10 佐野高校着、解散

プレゼンの直前

- まだオープンキャンパスの時間のうちから、メンバーが集まって、プレゼンの練習を一生懸命行っている班もありました。



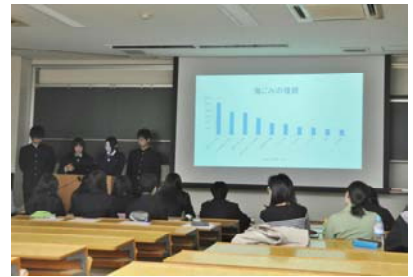
大学のゼミでのプレゼン風景

- 「大学教授の前でプレゼンするなんて、とても緊張します！」という声も少なくありませんでした。
- 実際、かなり緊張していました。しかし、全員が協力して最後まで頑張ってやり遂げました。



大学教員・学生との質疑応答

- 第一線の研究者から、改善点や新しい視点の教示など貴重なアドバイスを直接頂くことができました。
- 厳しい指摘や温かいご指導が、今後の研究への大きな励みとなりました。



中間発表会を行って

- プレゼン内容について、生徒たちは**ルーブリック**（裏面参照）を使って相互評価を行いました。大学教員や大学生、大学院生にもルーブリックを用いて定量的な評価をして頂きました。
- 中間発表会で他の班のプレゼンを聴くと、自分たちのテーマと異なっても、追究方法やプレゼンの方法が参考になります。自分たちの取組が他のテーマとつながっているという視点を忘れないためにも、他の班のプレゼンを聴く中間発表会は有効でした。



生徒の感想から

- 最初に設定したテーマと調べてきたものとのズレがあることが分かりました。これまで調べてきて、情報はたくさん集まっているので、今後はそれを活かせるように、内容を詰めていきたいです。
- フィールドワークをしたものの、「こんな事をしてたんだ。」という程度で終わってしまったような気がするので、事前に詳しく調べておくべきだったと思います。
- 方向性(企画)は問題ないので、あとは研究を進めていくだけだと思います。
- パワーポイントを全体的に作り直す。追加情報を得るため、もう一度聞き取り調査を行う。

課題研究中間発表会・担当教員一覧（11月3日 宇都宮大学）

分科会	担当教員の所属・氏名		班	領 域	テーマ（内容）	会場
A	地域デザイン学部 コミュニティデザイン学科	若園雄志郎先生	3	①公害や災害からの復興	災害からの復興と地域コミュニティ	4 A 4 6
			26	⑥人権・教育・文化	2020年に向けて、地域で日本文化をどうアピールするか	
B	地域デザイン学部 コミュニティデザイン学科	大森玲子先生	9	③食料・エネルギー・水	佐野ラーメンで他地域の結びつきを活性化させる	4 A 3 5
			19	④環境と経済・法律	ラーメン、イモフライに続く第3の名産品の開発	
			22	④環境と経済・法律	イモフライによる経済効果	
C	農学部 里山科学センター	高橋俊守先生	15	③食料・エネルギー・水	耕作放棄地再生活動	4 B 4 3
			18	④環境と経済・法律	農村フットパスによる地域活性化	
D	工学部 建設学科	長田哲平先生	23	⑤まちづくり・コミュニティ	佐野市を交通網から活性化させる	4 A 4 2
			25	⑤まちづくり・コミュニティ	景観形成によるまちづくり	
E	国際学部 国際社会学科	高橋若菜先生	1	①公害や災害からの復興	過去から学ぶ！～被災者の現状に対する対策～	4 B 2 3
			12	③食料・エネルギー・水	佐野の水は本当に名水？	
			21	④環境と経済・法律	地域のゴミ問題を考える	
F	国際学部 国際社会学科	古村 学先生	11	③食料・エネルギー・水	太陽光発電は本当に持続可能か	4 B 3 1
			20	④環境と経済・法律	地域に役立つ小水力発電	
G	国際学部 国際社会学科	松尾昌樹先生	13	③食料・エネルギー・水	佐野発、新エネルギー	4 A 3 3
			16	③食料・エネルギー・水	ハラールフードの提供によるグローバル化の推進	
H	国際学部 国際文化学科	佐々木一隆先生	24	⑤まちづくり・コミュニティ	栃木に人を集めるための提案	4 B 2 4
			31	⑥人権・教育・文化	方言を使った地域活性化	
I	国際学部 国際社会学科	栗原俊輔先生	2	①公害や災害からの復興	関東東北豪雨からの復興	4 B 1 1
			4	①公害や災害からの復興	関東東北豪雨からの復興	
			32	⑥人権・教育・文化	真の国際人になるための英語教育の提言～アジア各国との比較から～	
J	国際学部 国際交流センター	湯本浩之先生	14	③食料・エネルギー・水	佐野の名産品を世界に	4 B 2 1
			17	④環境と経済・法律	仮想水から考えるグローバル化	
			27	⑥人権・教育・文化	論語からグローバル化への提言	
K	教育学部 英語学	天沼 実先生	29	⑥人権・教育・文化	小学校の英語教育からグローバル化を目指す	4 B 4 7
L	教育学部 教育学研究科	小野瀬善行先生	28	⑥人権・教育・文化	世界の教育制度から日本の教育を考える	4 A 4 4
			30	⑥人権・教育・文化	校則から考えるグローバル教育	
M	農学部 農業環境工学科	大澤和敏先生	5	②自然・生命	佐野の湧水、菊沢川の自然	4 A 4 7
			6	②自然・生命	佐野市はなぜ地下水を飲み水として使っているのか	
			10	③食料・エネルギー・水	佐野の水による地域活性化	
N	農学部 森林科学科	大久保達弘先生	7	②自然・生命	里山の素晴らしさを世界に伝えよう	4 B 3 4
			8	②自然・生命	足尾鉾毒が動植物に与えた影響	

○中間発表の評価に使用したルーブリック

SGH Project Rubric 2016年 月 日() 第 班 ○で囲む→ 大学教員 大学生 高校教員 高校生(組 番) 氏名.....

評価項目 / レベル	レベル1 (不可)	レベル2 (可)	レベル3 (良)	レベル4 (優)	得点記入 (1~4)
Literacy 調査力	①調査力 インターネットや文献調査のみ	アンケート調査や街角インタビューを行った	実際に体験するなど本格的な調査を行った <small>例 提言するフットパスコース12kmを実際に歩いて調査した</small>	(ネットや文献で)自分たち以外の先行研究を把握して研究を進めた <small>例 大学の論文をサイトで検索し調べて参考にした (引用明記)</small>	
	②体験から学ぶ力	6月の「第1回FW」体験を研究に生かせなかった <small>体験の「振り返り」を行っていない</small>	6月のFW体験から何か取り入れることができた <small>例 十分な事前調査の大切さが分かった</small>	FWから私たちの地域の特色に気付くことができた <small>例 新エネルギーが豊富に存在する地域であることが分かった</small>	FWから地域の特色とグローバル社会とのつながりにまで気付くことができた <small>例 グローバルな課題解決のために、見知らぬ国へ出張できる取り組みができた</small>
Solving Problems 提言力	③地域性 佐野や栃木の特色をふまえずにテーマを設定した。	地域の特色を調査した	地域の特色を多面的に調査した	さらに、地域の特色をデータで示すなどして実証的に調査した	
	④課題意識 小中学生の自由研究レベル <small>例 反論を添えても 適切な反論</small>	持続可能な社会の実現のために、よくある提言 <small>例 商店街がシャッターを閉ざらばよい</small>	持続可能な社会の実現のために オリジナルな提言	地域の企業や自治体に実際に提言できるレベル <small>例 商店街のビジネスになるエコークなアイデアを提言</small>	
Diversity 異なる考え方を生かす力	⑤協働性 役割分担ができていない	役割分担をして調査・研究している <small>【出】役割分担しただけである】</small>	(役割分担して調査・研究したばかりでなく) 協力して論を練り上げていった	メンバーの異なる個性、持ち味を引き出してチームの力を最大化できた	
	⑥つながる力、巻き込む力	(他の一員の)大学生とも十分連携できず	外部の人から調査への回答・協力は得られたレベル	他者を自分たちの研究に巻き込んで研究を進めることができた <small>例 直方市の女性方と組んで「農村食産」提案</small>	
Presentation 表現力	⑦わかりやすい論理性 「ねらい、仮説、調査事項、提言」の形式がとられている <small>【単に形が整っただけでは】</small>	大きな論理的誤りなし、論旨が一貫	論理的誤りが皆無、論旨が一貫	提言への疑問や反論まで想定して論理を構成している 【反論を包含している】	
	⑧伝える工夫	PP(パリーキ/ル)資料を作ることができた <small>【単に作ったレベル】</small>	PP資料の作り方の基本は身に付いているレベル	(紙や図が効果的等)、わかりやすく伝えるための工夫があった	関心を惹きつけるための工夫・アイデアが随所に凝らされている 【「人」を惹きつけるレベル】
感想やアドバイス					合計得点